

令和5年度予算案の検討状況

主要事項 補足説明資料



子育て世帯への負担を軽減し、各学校間の給食単価と保護者負担の統一化を図るため「1食200円給食」を継続して実施

1. 事業内容等

◆「1食200円給食」実施による保護者負担軽減

様々な物価高騰に直面している保護者の経済的負担を軽減するため、給食費の保護者負担を全小中学校、全学年で1食200円に統一し、市が差額を支援。子どもたちの給食の質・量を低下させることなく、引き続き地場産物を積極的に活用し、食育を推進。

区分	校数	児童・生徒数	給食日数	給食費（1食当たり）	
				補助額	保護者負担額
小学校	17校	2,367人	200日	60円	200円
中学校	6校	1,221人	188日	100円	200円

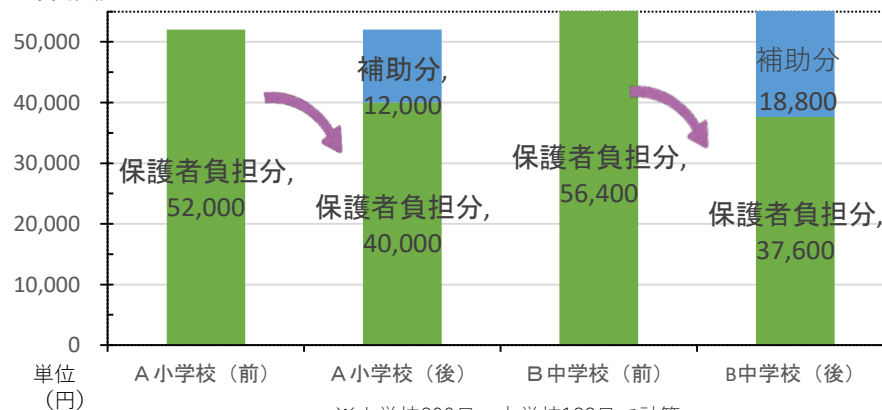
2. 想定される効果

◆京丹後市の学校給食を1食200円で提供！

- ★食材高騰による保護者負担増なし
- ★市内の児童・生徒が200円の統一金額となり、保護者負担が軽減（市内全小学校・中学校）
- ★地場産物を積極的に活用



■年間負担額



英語力向上アプリ「ELSA Speak」をすべての中学校、全学年に導入し、継続した発音学習等の機会を提供

- 1. 背景**
 - ・R4年度より市内中学2年生を対象に導入した英語力向上アプリ「ELSA Speak」は、導入から約半年で生徒の英語に対する意欲の向上や意識変化がみられる。
 - ・本アプリを中学3年間を継続して使用することで、英語力の向上等、一層の効果が期待できる。
- 2. 目的**
 - ・市内中学2年生を対象としていた本アプリ導入に**中学1年生・3年生を追加**することで、学校や家庭において、継続した発音や会話学習の機会を提供し、英語で自分の思いや考えを自信をもって伝え合うことができる生徒の育成を目指す。
- 3. 事業内容**
 - AIによる英語力向上アプリ「ELSA Speak」の導入
対象：**市内全中学1～3年生全員**
内容：
 - ・英単語や英文の発音矯正
 - ・専門員による対面またはオンラインでの指導助言の実施（各学期1回）
 - ・英検（実用英語技能検定）準2級・3級・4級に対応した教材の追加（追加）
- 4. 想定される効果**
 - 生徒の「英語力」を確実に伸ばす。
 - ・発音を向上させ、英語を話す自信をつける。
 - ・英語科担当者が、学習状況を把握し、生徒の課題克服に働きかける。
 - 「確かな力」と「自信」を身につけ、進路、将来につなげる。
 - 「ICT×英語教育」で、都市部に負けない教育の充実を図り、グローバルリーダーを育成する。

5. これまでの取り組み状況

- R4.4 市内全中学2年生にアカウント配布、各校にて使用開始

従来の英語の授業 教員の悩みと子どもたちの思い

【教員】一斉指導では限界がある！

- ・発音や音読指導は行うが、個別の指導にまでは至らず。
- ・生徒一人ひとりの発音の伸びや変容を確認することは難しい。
- ・リスニングの指導の機会はあるが、一斉に同じ回数聞かせる。

【生徒】自分の伸びが分からないから自信がもてない！

- ・十分に教えてもらっていないのに、テストはある。
- ・発音や音読練習をがんばっても、何をどのように改善すべきか分からない。

導入から半年後・・・

導入後にみられた変化（教員の声、生徒の感想から）

【教員の声から】

- ・「聞く」「話す」をアプリを使って**繰り返し練習することで、英文の文構造に慣れ**、英文が書けなかった生徒が**書けるようになった**。（定期テストでも、成果が見られた。）
- ・**英語の学習に課題のある生徒も**、ゲーム感覚で取り組めることから、**意欲的になった**。

【生徒の感想から】

- ・集中的に家庭学習することでだんだん単語や英文が読めるようになり**自信がついた**。
- ・**自分の苦手なところが分かって**、より良い発音ができるように意識して練習できた。
- ・**LやSHの発音**がうまくできていなかったけど、**ELSAでコツがつかめた**。
- ・パフォーマンステストで満点が取れたり、**自分でも以前より上手に発音できるようになっていると実感している**。
- ・**苦手だった英語が好きになり**、ELSAで身につけたことや英語で勉強したことを活かして、**ALTとたくさん話してみたい**。

- 市教委による教員向け研修会の実施（令和4年度）
 - ・グローバル人材育成事業説明会（5月25日（水））
 - ・市中研英語科部会 講師「ELSA Speak を効果的に活用した授業づくりについて」（8月8日（火）、10月4日（火））
 - ・市中研英語科部会公開授業研究会 指導助言（11月11日（金））
 - ・【定期的に】学校訪問による指導支援、中学校校長会への働きかけ





丹後学、デザイン思考、STEAM教育の要素を融合させた6日間のプログラム（ワークショップ）を実施

- 1. 背景**
- ・「全国学力・学習状況調査」（R3年）において、「自分にはよいところがある」、「将来の夢がある」の項目で、肯定的回答が全国を下回る。
 - ・「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表わされている」、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目で、肯定的回答が全国や府を下回る。
 - ・京丹後市には高等教育機関（大学等）が存在せず、教育における地理的ハンディキャップを超えた質の高い教育機会が求められる。

2. 事業内容等

① 目的 本市の産業集積の特色等を生かしつつ、SDGsにも通じるSTEAM教育を通して、「国際感覚を持ち、グローバル社会で活躍できるイノベティブなリーダー人材を育てる」ことを目指します。

② 参加対象 市内中学校に通う**中学3年生**
市内在住の**高校2年生**
※R4年度は35人（中3:28人、高2:7人）が参加

③ プログラムの流れ Day1～Day6の6日間プログラム

京丹後はこんなに面白い
地元の企業と交流しよう

＜R4年度参画地元企業等＞

- ・木下酒造(有)（日本酒蔵元）
- ・(株)Sazae Japan（ITコンサルティング）
- ・(株)U設計室（建築設計）
- ・社会福祉法人みねやま福祉会（児童・高齢者・障害福祉）
- ・田勇企業(株)（織物）
- ・丹後織物工業組合（織物）
- ・日本玄承社（刀鍛冶）
- ・ヒロセ工業(株)（精密部品加工・金型）
- ・描く人（デザイナー兼アーティスト）

地域課題の解決の仕方
海外大学からデザイン思考を学ぼう



- ＜連携推進体制＞
- ・トロント大学（カナダ）
 - ・スタンフォード大学（アメリカ）
 - ・一般社団法人スカイラボ
- ＜支援体制＞
- R4年度は9名のバリエーショナル大学生がサポート

わたしたちが作る京丹後
未来の姿をデザインしよう



まちをこう創ればきっと楽しい！
自分がデザインしたまちに変えていく！
一緒に「未来の京丹後をデザイン」し、
英語でプレゼンテーションをします。

京丹後市でこんなこともやってるの？
こうすればもっと面白いまちになるかも！
「京丹後の潜在力や可能性」を地元企業との関係者
から学びます。

そういう発想があったなんて……
となると、この問題の解決方法はこうだ！
探求型カリキュラムを通して、ものづくり課題解決のため
の人間中心の「新しい発想方法」を学びます。

④ 得られる
スキル・経験

進路選択に役立ちます！

企業の方との交流を通し、将来のキャリア
や進路を考える機会となります。

新しい時代に適したデザイン・提案力が身に付きます！

アメリカシリコンバレーで注目の最新のデザインメソッド「**デザイン思考**」を学びます。

実践的な英語力UP!

英語でプレゼンテーションする力が身に付きます。

⑤ 期待する効果

- ✓ STEAM領域への関心・イメージの向上
- ✓ クリエイティブコンフィデンス（自らの創造性に対する自信）向上
- ✓ エンパシー（共感力）向上
- ✓ キャリアに対する意識変革



⑥ 実施スケジュール

2022

- ・SKY Laboと協働で京丹後市の素材を生かしたプログラムを開発
- ・地元企業関係者、現役大学生・大学院生のデザインコーチに協力いただける大学等との連携
- ・市内中学校との連携、教員の参加

2023

- ・ELSA Speak(アプリ)の活用により、英語の「聞く力」、「話す力」のレベルアップを図り、英語でのやり取りに自信をもてる生徒の育成を目指す。

2024

2025～

3年間かけてプログラム開発を進め、4年目から、開発したプログラムを活用した新しい教育の実現を目指す。

大学教授による分析で、現在の京丹後市の中学生課題克服につなげるアドバイスを各、各校での指導に活かす。

・京丹後市独自の運営スタート

学校において、PBL（問題解決）型業務改善についての専門的コンサルタントによる伴走支援を受ける

1. 背景

- ・市教育委員会では平成30年7月に、京丹後市「教職員の働き方改革実行計画」を策定し、教職員の時間外勤務削減に取り組んできたが、目標に到達していない。
- ・令和4年度は教職員にとってのPBL（問題解決）として業務改善を位置づけることで、個人としても、組織としても主体的に学び、問題解決力やコミュニケーション力を養うため実証検証を峰山中学校で実施した。（無償）

2. 目的

- ・学校現場における業務改善を進めるため、教職員自らが勤務実態の把握をもとにして考えた具体的な改善策を行動化する「課題解決型（PBL型）業務改善」について専門的なコンサルティングの伴走支援を受けることで、学校における働き方改革を推進する。

3. 事業内容

令和5年度実施予定校

◇ **大宮第一小学校**（教職員数 31人 児童数 435人）

月1回（4～5時間）のコンサルティング（ワークショップなど）を約8ヶ月間実施

令和4年度は実証実験として峰山中学校で実施中。
小・中それぞれの実施結果を踏まえ、全ての小中学校へノウハウ等を展開する。



5. 事業イメージ

- 教職員だけでワークショップをしてもアイデアは限られ、忙しい日々の中でアイデアが行動に移らないというケースがある。
- 外部のコンサルタントが入ってアイデアを工程表に落とし込んだうえで、定期的に進捗確認する場を設けることで「やりっぱなし」「言いつぱなし」がなくなる。
- 各自の裁量範囲をはっきりさせ、効率的な実行や決定の手順を決めるよう助言する。
- 管理職・担当教員等それぞれの役割について助言する。



伴走支援

業務改善 ①始める（知る）
②考える
③決める（変える）

働き方改革の推進

4. 想定される効果

- ・業務改善による学校教職員の時間外業務の削減
- ・教職員個人としても、組織としても主体的に学び、問題解決力やコミュニケーション力を養うことができる

中学校（生徒数の多い3校）にテスト採点補助システムを導入し、時間的負担が大きいテスト採点業務の効率化を図る

- 1. 背景**
 - ・市教育委員会では平成30年7月に、京丹後市「教職員の働き方改革実行計画」を策定し、教職員の時間外勤務削減に取り組んできたが、目標に到達していない。
 - ・R4年度（1学期～2学期中間テストの間）に2システムを試行使用し検証した結果、1学年2～3クラス以上の学校で、作業時間の短縮など効果を発揮することが確認できた。
- 2. 目的**
 - ・長時間かかっているテストの採点を効率化し、教員の時間外勤務の削減を図ることで、働き方改革を推進する。

3. 事業内容

令和5年度実施予定校

- ◇ 峰山中学校（生徒数 285人 計9クラス ※通常学級）
- ◇ 大宮中学校（生徒数 259人 計9クラス "）
- ◇ 網野中学校（生徒数 261人 計8クラス "）

※採点補助システムを学校に導入。原則、校内すべての科目におけるテストでシステムによる採点を実施。

※時間削減効果が見込める1学年2クラス以上の学校で実施する。

<試行使用期間での検証の結果>

- 正答・誤答チェック
システムでの採点：2時間 アナログでの採点：3時間
- 得点計算
システムでの採点：10分 アナログでの採点：1時間
- 転記及びデータ入力
システムでの採点：自動 アナログでの採点：20分
- 合計
システムでの採点：130分 アナログでの採点：260分（教員1人、1回のテストあたり）

4. 想定される効果

- ・テストの採点にかかる作業時間の半減による教員の時間外業務の削減
- ・システム導入による採点の正確性の向上

5. 事業イメージ

テストの採点時に必要な業務

- ①正答・誤答チェック
- ②得点計算
- ③転記及びデータ入力

■ アナログでの採点

- 採点時間：260分
- ①正答・誤答チェック：3時間
 - ②得点計算：1時間
 - ③転記及びデータ入力：20分



■ システムでの採点

- 採点時間：130分
- ①正答・誤答チェック：2時間
 - ②得点計算：10分
 - ③転記及びデータ入力：自動



★採点にかかる時間が半減（130分の削減）
教員1人、1回のテストあたり

働き方改革の推進

ヤングケアラーを早期に発見し、適切な支援につなげるため、「ヤングケアラー・コーディネーター」1人を家庭子ども相談室内に配置

1. 背景

- ・ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことで、その責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことが問題とされ、我が国においても近年新たな社会的課題としての認識が広まりつつある。
- ・国の実態調査（R2中学・高校、R3小学・大学対象）では、世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生が6.5%、中学2年生が5.7%、高校2年生が4.1%、大学3年生が6.2%存在しているとの結果が出ている。
- ・本市においても、学校から家庭子ども相談室への報告内容などから、家事をしたり、きょうだい間の世話をしたりするなどの、ヤングケアラーと思われる事例も見受けられる。

2. 目的

- ・ヤングケアラーを早期に発見し、子どもが子どもらしく生活できるように支援することにより、本市のすべての子どもの心身の健全な育成を図る。

3. 事業内容

ヤングケアラー・コーディネーターを家庭子ども相談室（大宮庁舎 子ども未来課内）に配置し、実態調査又は対象者の掘り起こし、ヤングケアラー当事者や家族などからの相談対応、関係機関との連携・調整等、ソーシャルワークによる個別ケース支援、講演会、研修会等の実施、広報啓発活動による社会的認知向上の取り組み、家庭支援事業の実施に向けた社会資源の開拓等の業務を行う。

○ヤングケアラー・コーディネーター（会計年度任用職員）1人を新たに配置

○本市におけるヤングケアラーの状況を把握するため、**実態調査を実施**

○ヤングケアラー支援関係者研修会の開催

4. 想定される効果

- ・本市のヤングケアラーの実態を把握することで、必要な支援体制を構築することができる。
- ・ヤングケアラー当事者や家族などからの相談に応じ、関係機関との連携・調整等を行うことにより、個別ケースの支援を適切に行うことができる。
- ・研修会等の実施や広報、普及啓発活動により、社会的認知の向上を図ることができる。
- ・社会資源の開拓や家庭支援に資する事業化により、子どもを支えるまちづくりを推進することができる。

5. 事業イメージ

